

# 措置診察に係る申請・通報等の 処理状況からみる現状と課題

○ 萩原嬉胡      倉永笑民<sup>\*1</sup>      中川優馬      日高真紀  
    蛭原夕起子      杉尾重子      藤崎淳一郎

(中央保健所      \*1健康増進課)

# はじめに

平成28年7月

相模原市障害者支援施設における事件



地域精神保健の在り方が  
再検討されている時期



申請・通報の現状を整理し、  
措置診察対応者の傾向を明らかにする

# 対象と方法

## (1) 調査期間

平成24年4月1日から平成29年3月31日  
までの5年間

## (2) 調査対象

中央保健所に対応した措置診察対応者  
184名

# 対象と方法

## (3) 調査項目

性別、年齢、通院歴、入院歴、配偶関係  
学歴、就労状況、措置診察時の問題行動

## (4) 分析方法

精神保健事前調査票と措置入院に関する  
診断書の内容を分析

自傷のみのおそれ

…「自殺企図」、「自傷」の2項目

他害のみのおそれ

…「傷害」、「暴行」など14項目

両方のおそれ

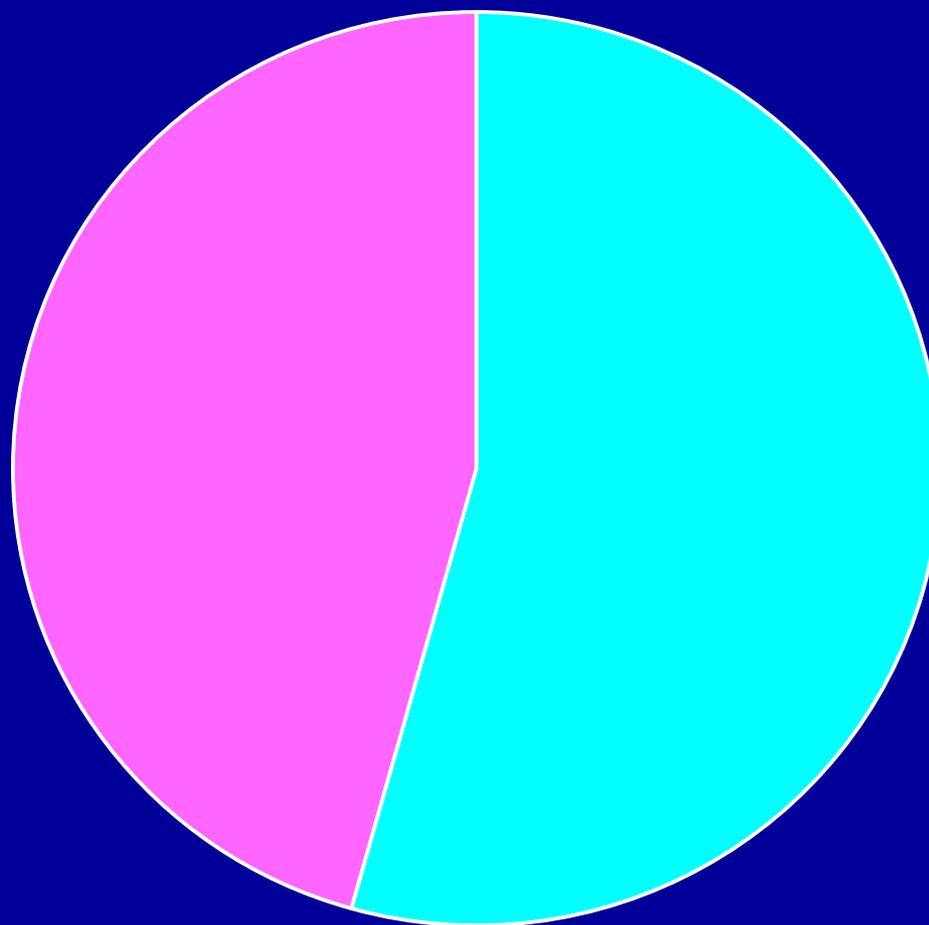
…自傷のおそれと他害のおそれがあるもの

※措置診察をした2名(緊急措置の場合は3名)のいずれかの医師が判断したおそれを計上している。

# 結 果

# 性別

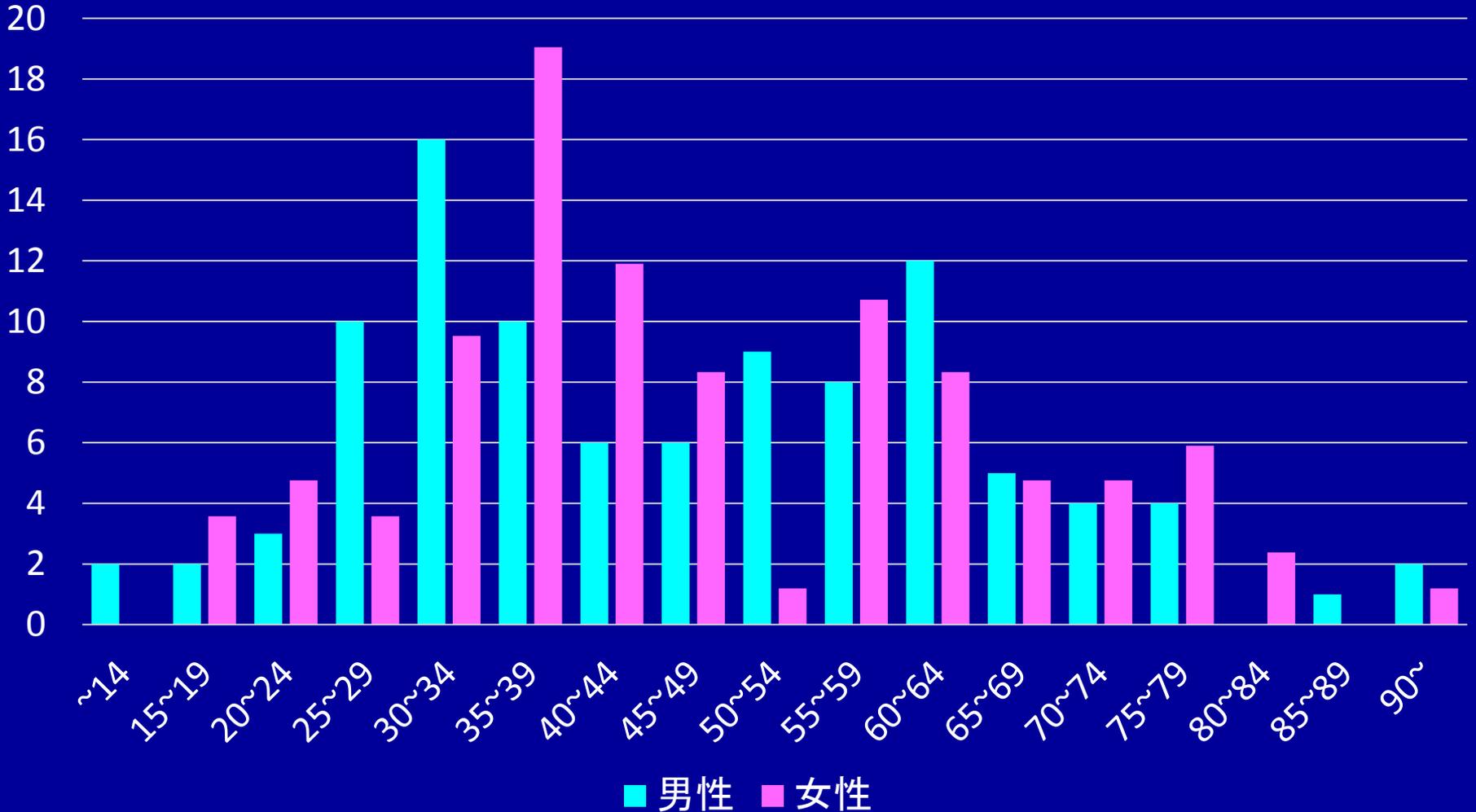
(n=184)



■ 男  
■ 女

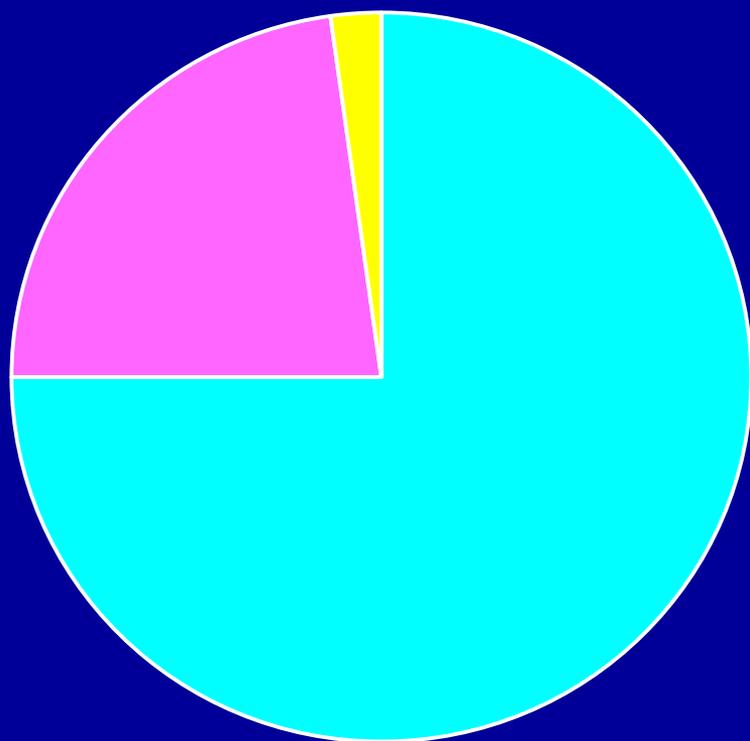
# 年齡構成

(n=184)

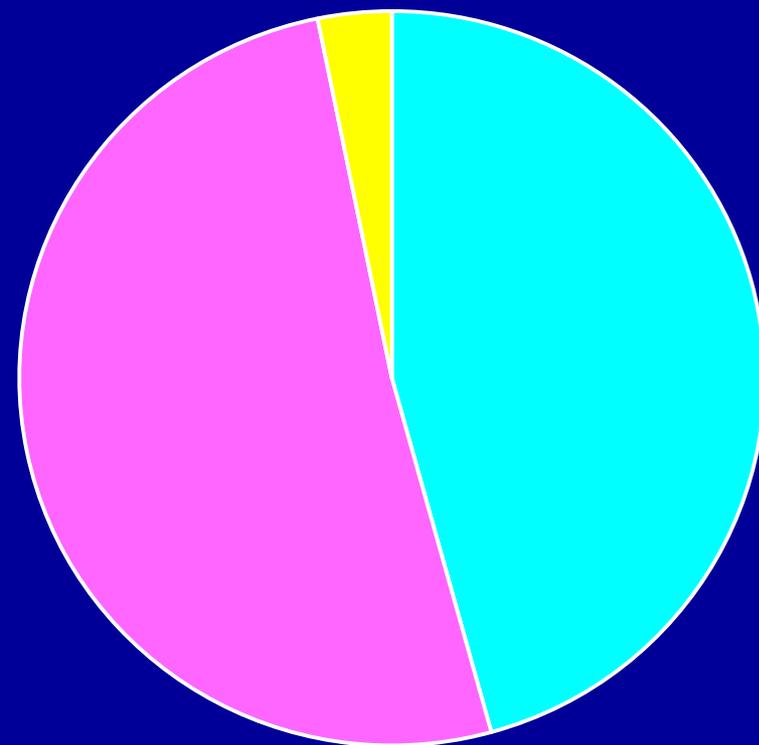


# 入院・通院歴

(n=184)



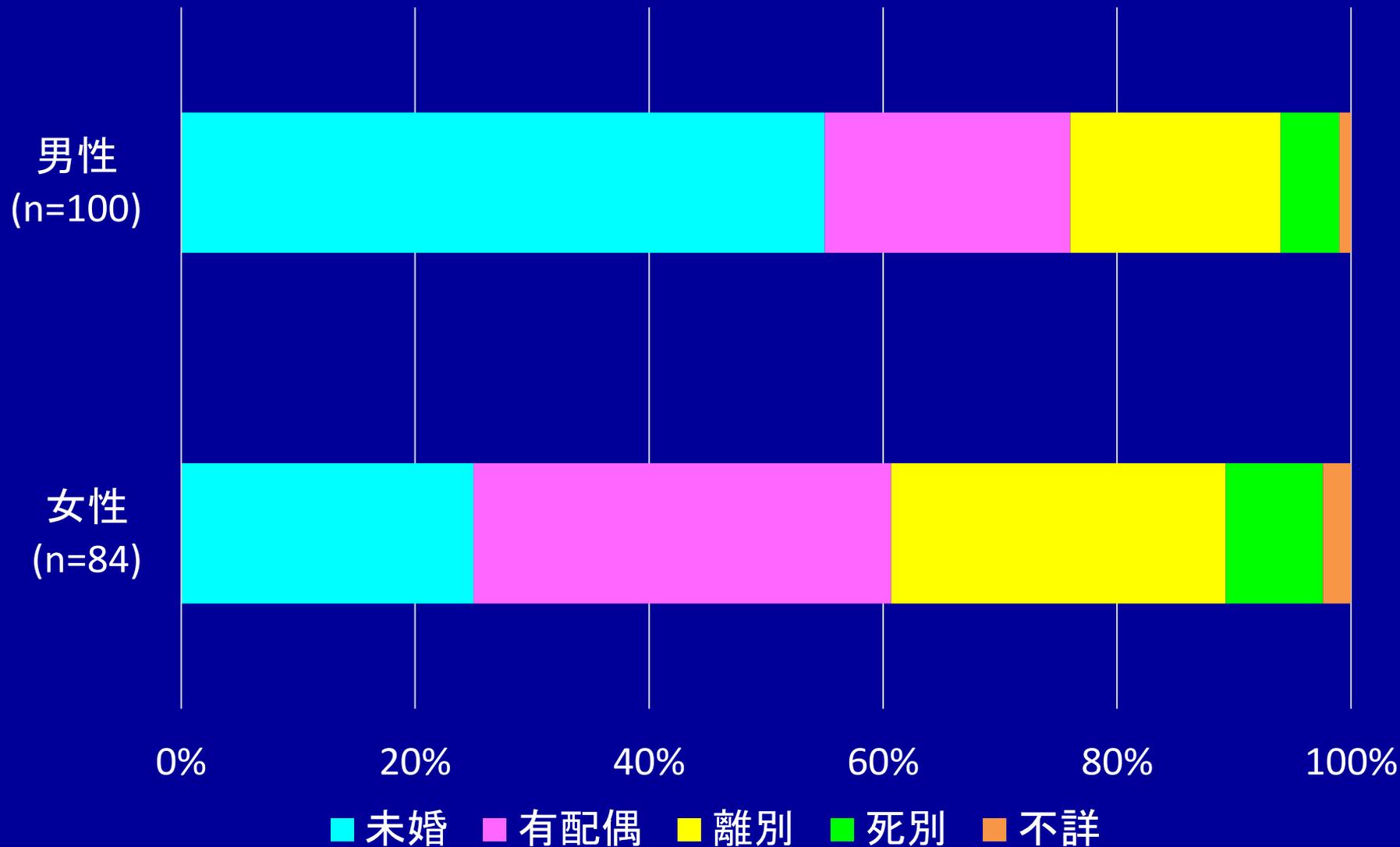
通院歴



入院歴

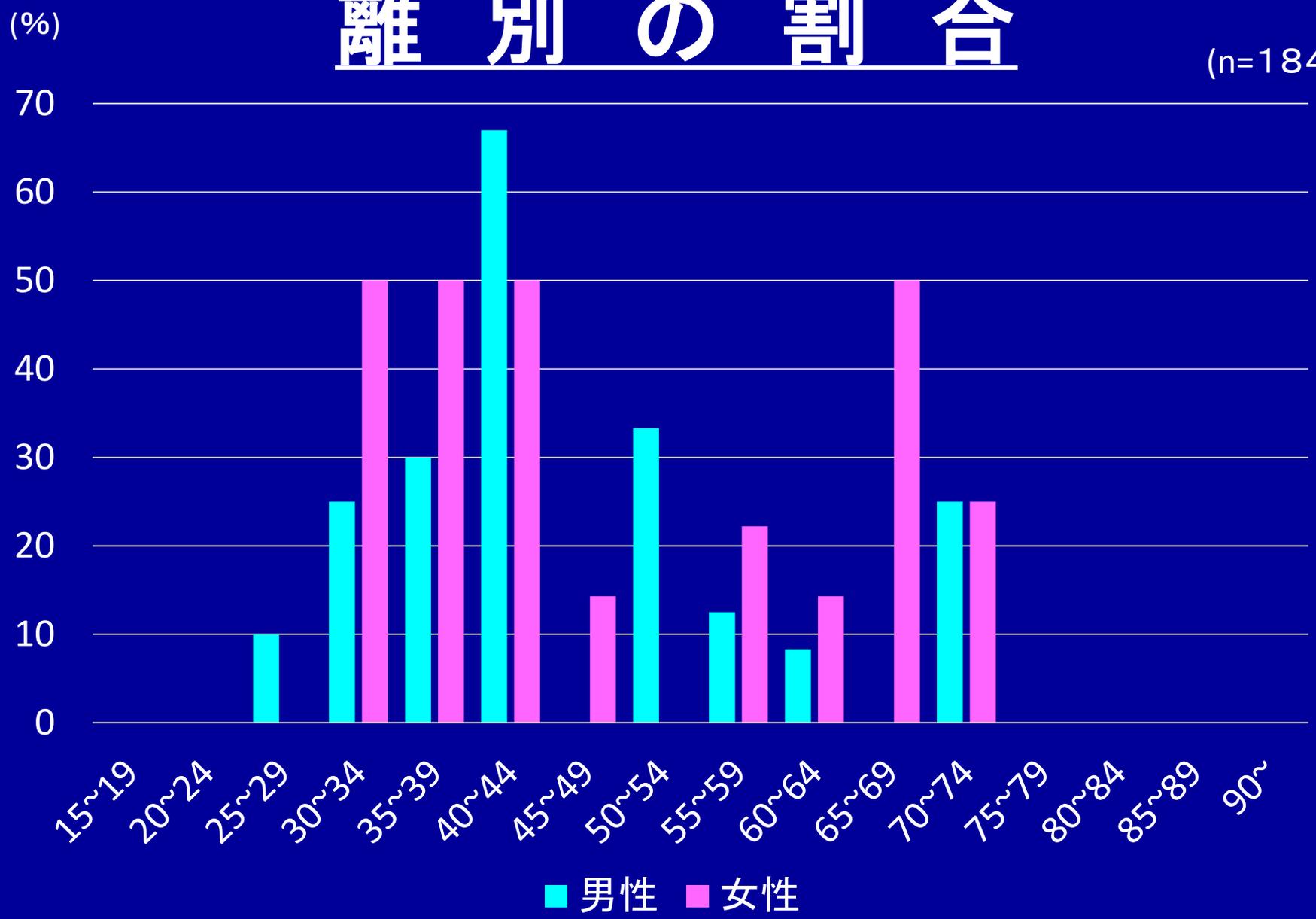
- あり
- なし
- 不詳

# 配偶關係

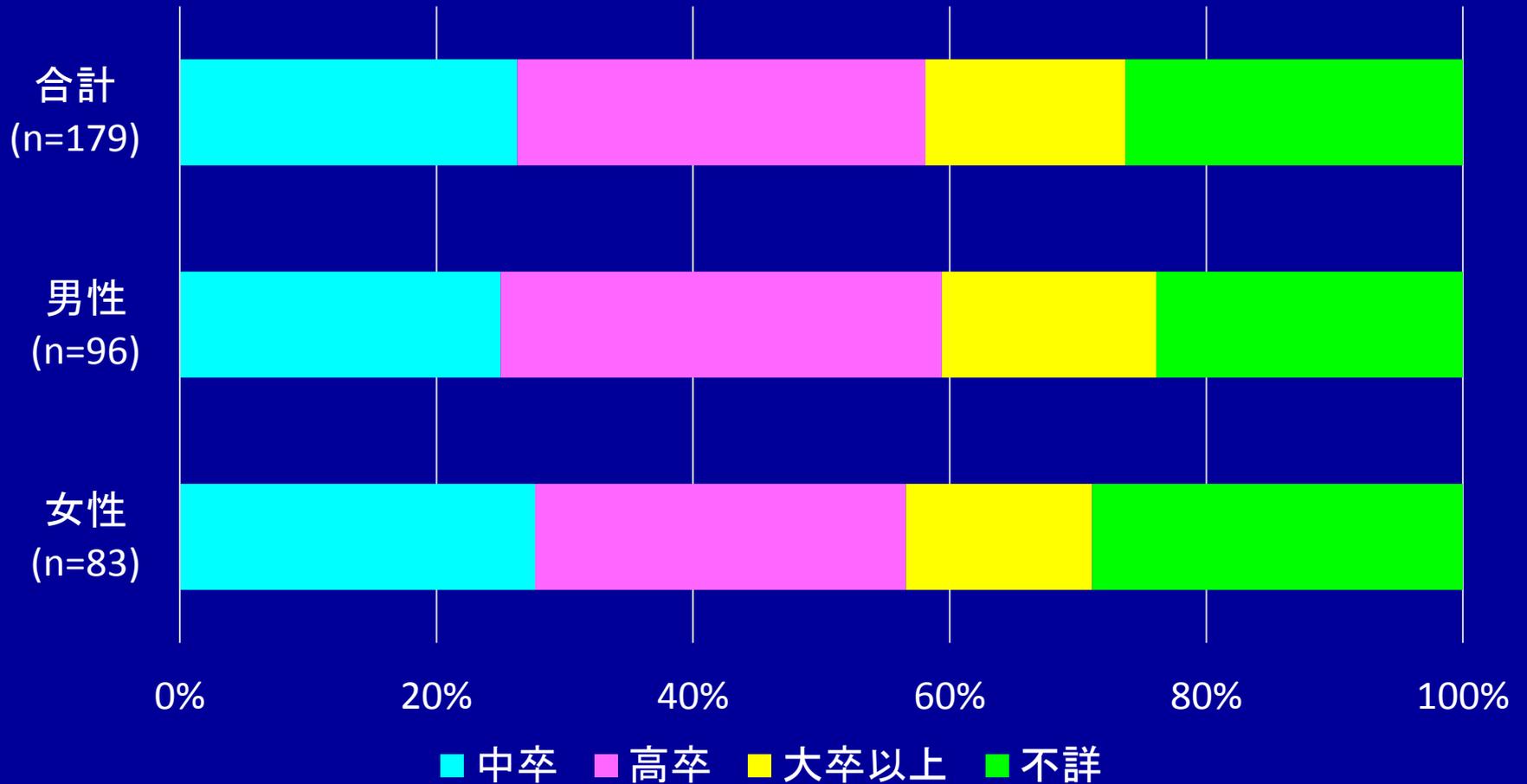


# 離別の割合

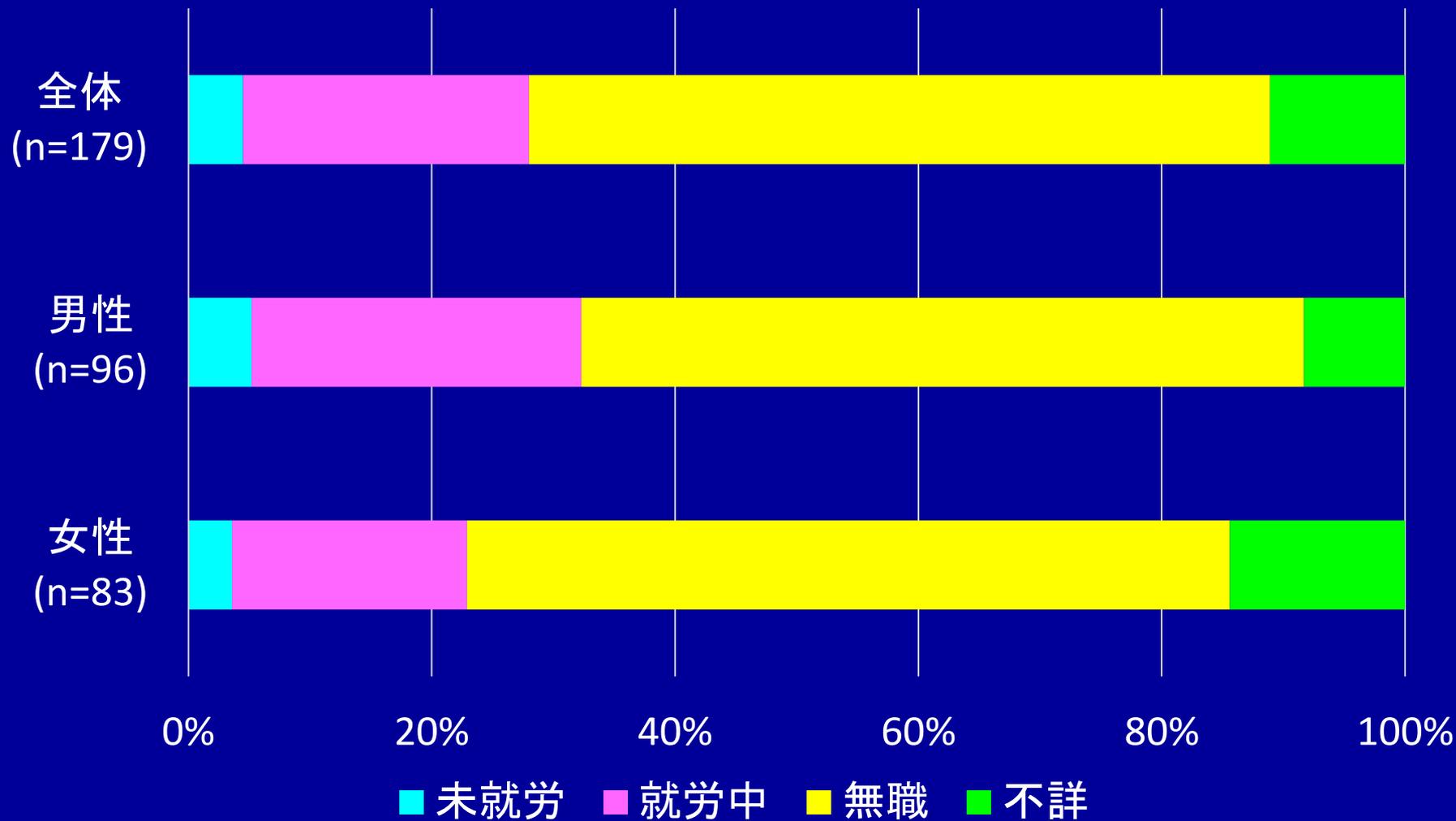
(n=184)



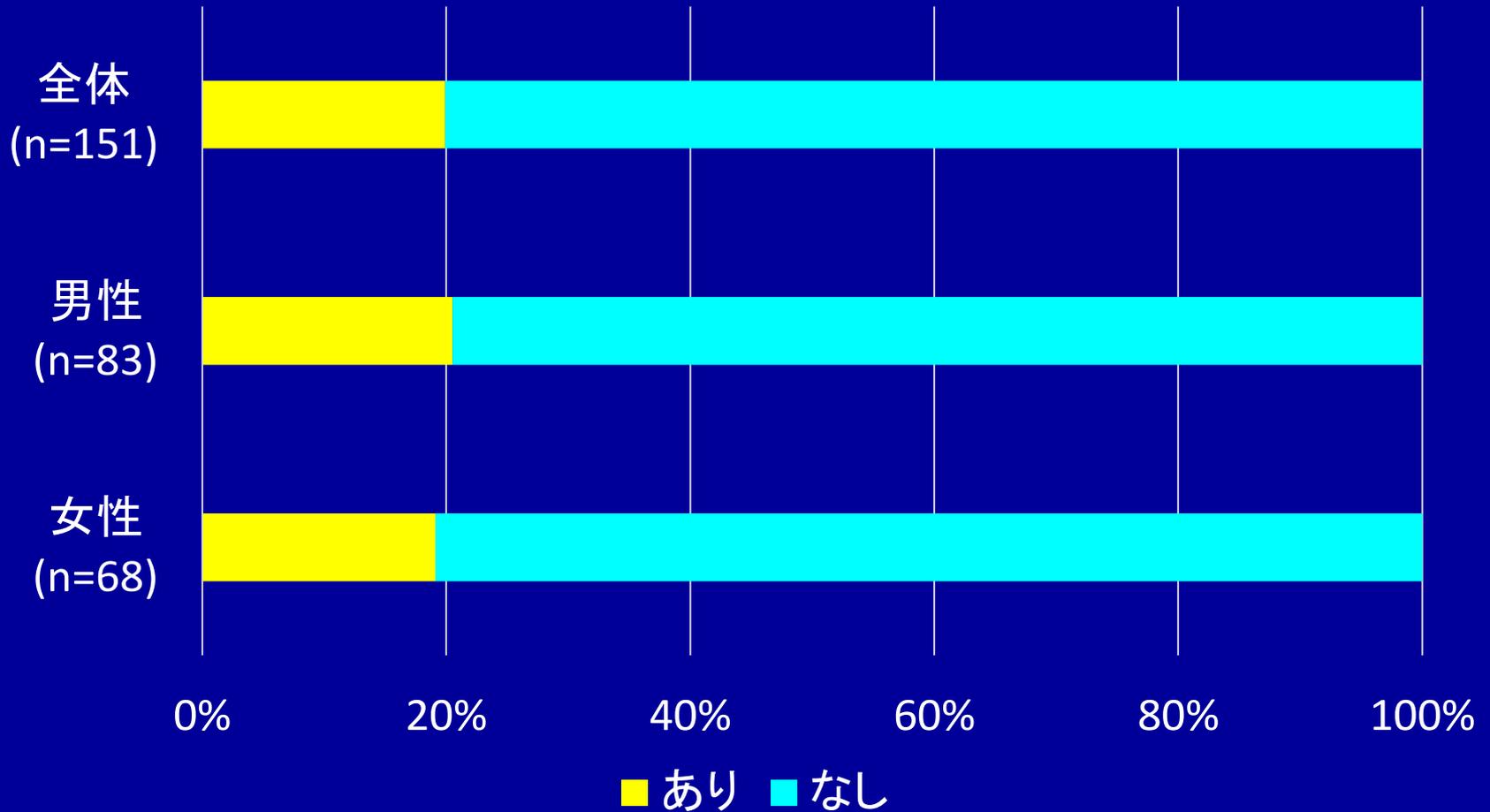
# 学歴 (在学中を除く)



# 就労状況(在学中を除く)

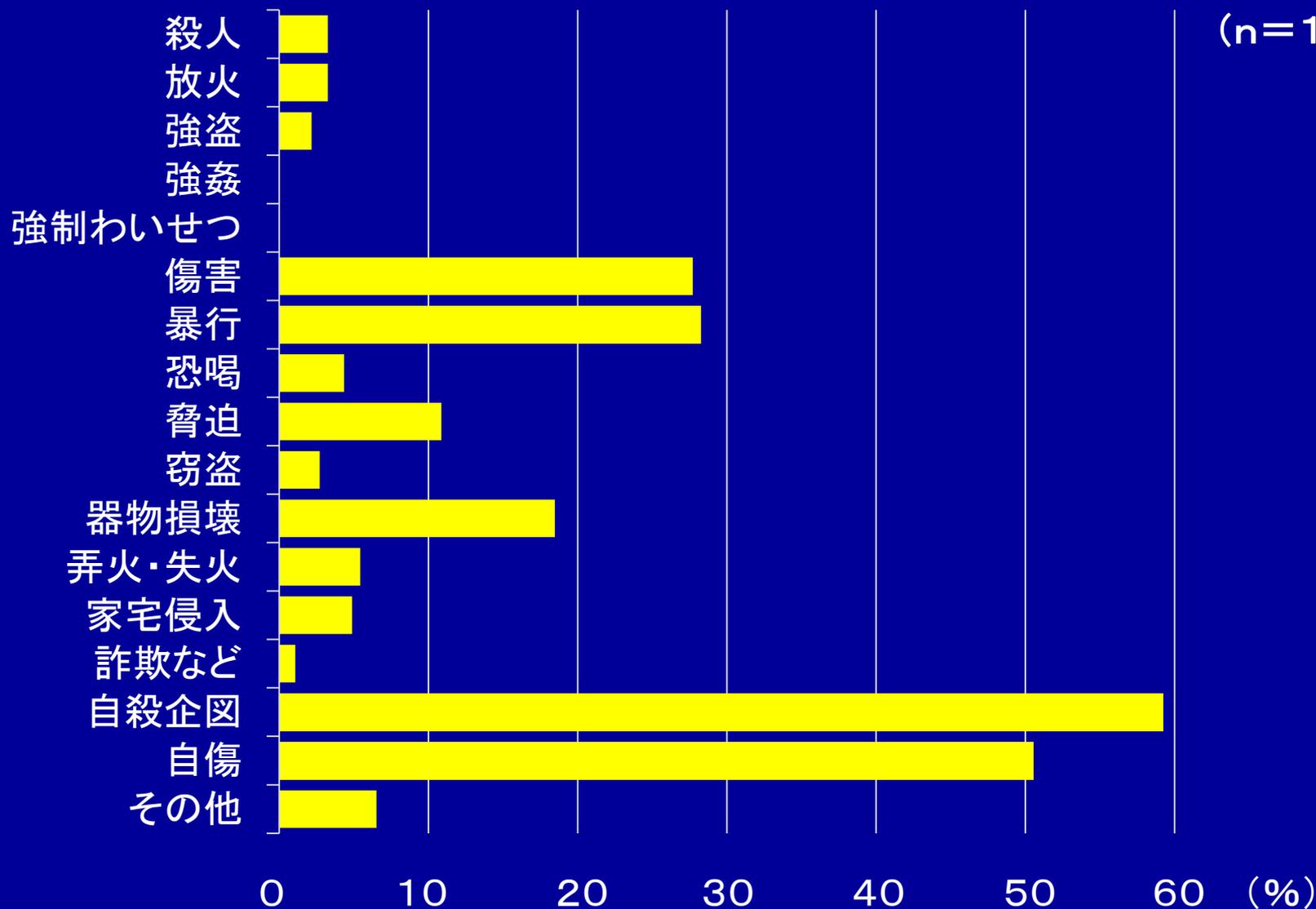


# 就労中・無職者の過去の転職状況



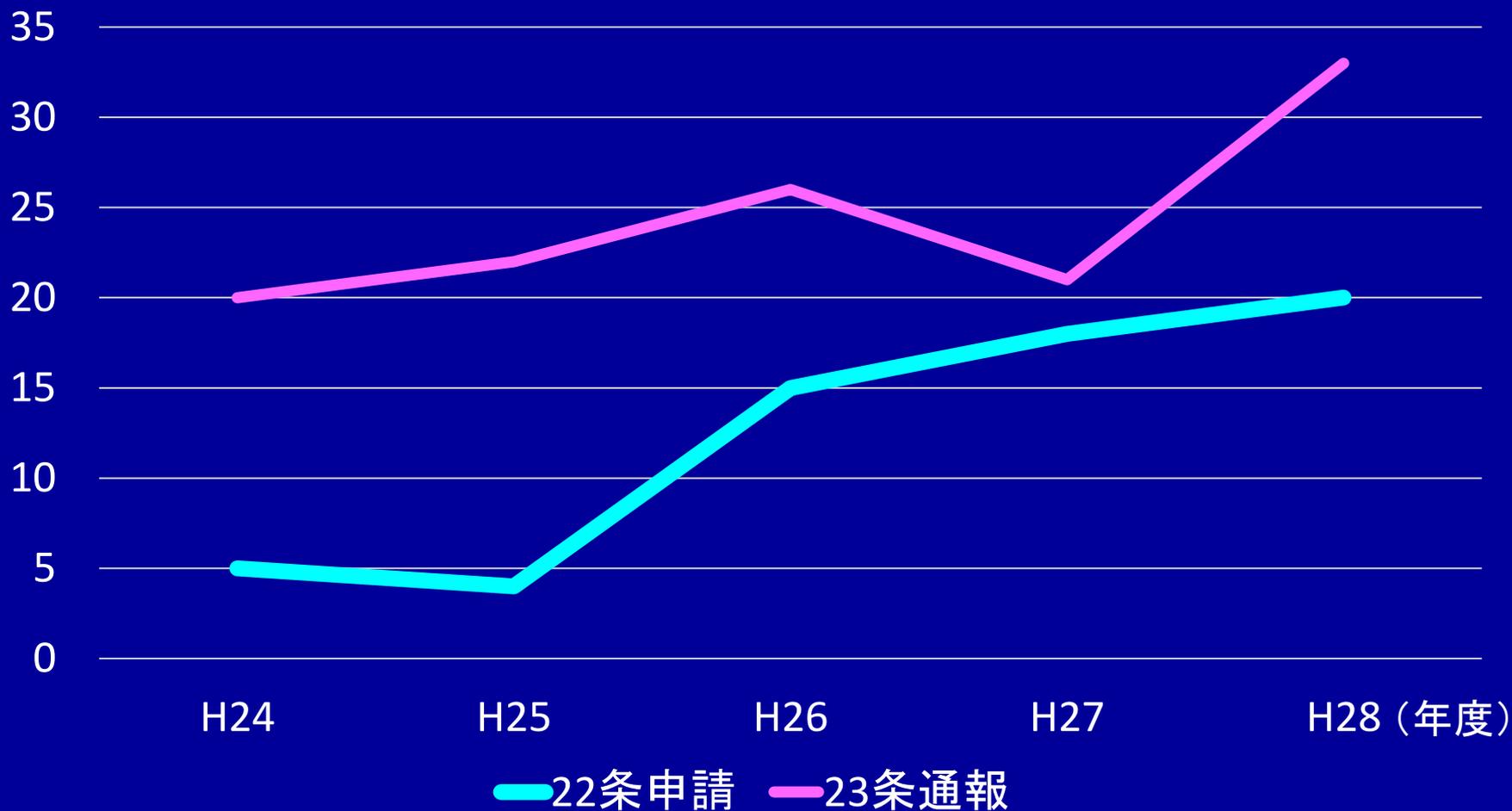
# 重大な問題行動(複数回答あり)

(n=184)

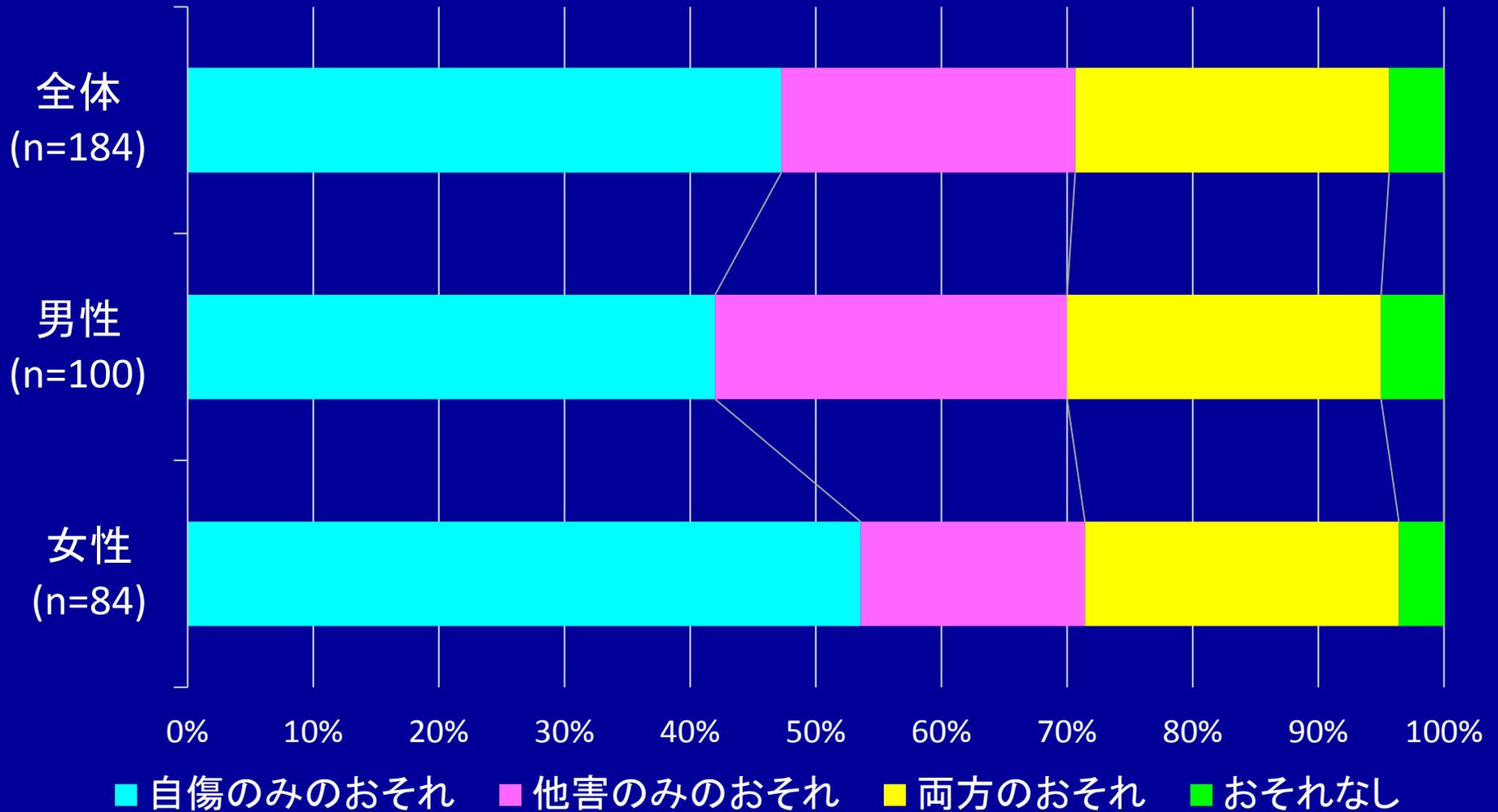


# 自傷他害のおそれ

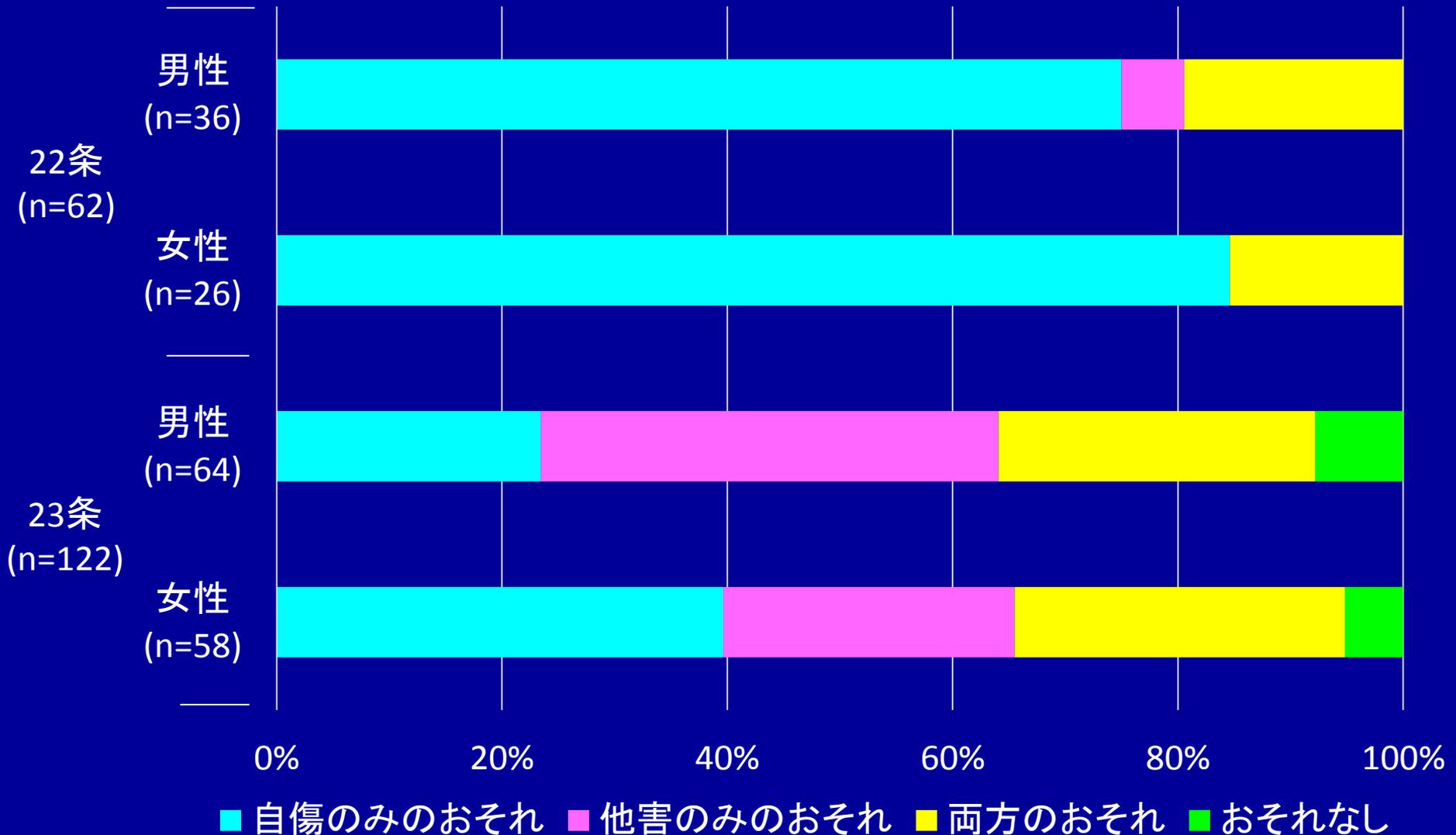
## 申請・通報件数(全体)



# 自傷他害のおそれ



# 自傷他害のおそれ



# 考 察

## 宮崎県中央保健所



## 宮城県

### 性別

男性 54.3%

女性 45.7%

### 年齢構成

30代 27.2%

40代 15.8%

60代 15.2%

### 通院歴

あり 75.0%

### 性別

男性 60.4%

女性 39.6%

### 年齢構成

30代 29.9%

50代 18.7%

40代 17.1%

### 通院歴

あり 71.1%



**対象者の属性は宮城県とほぼ同じ傾向**

措置診察対象者の75.0%に通院歴あり

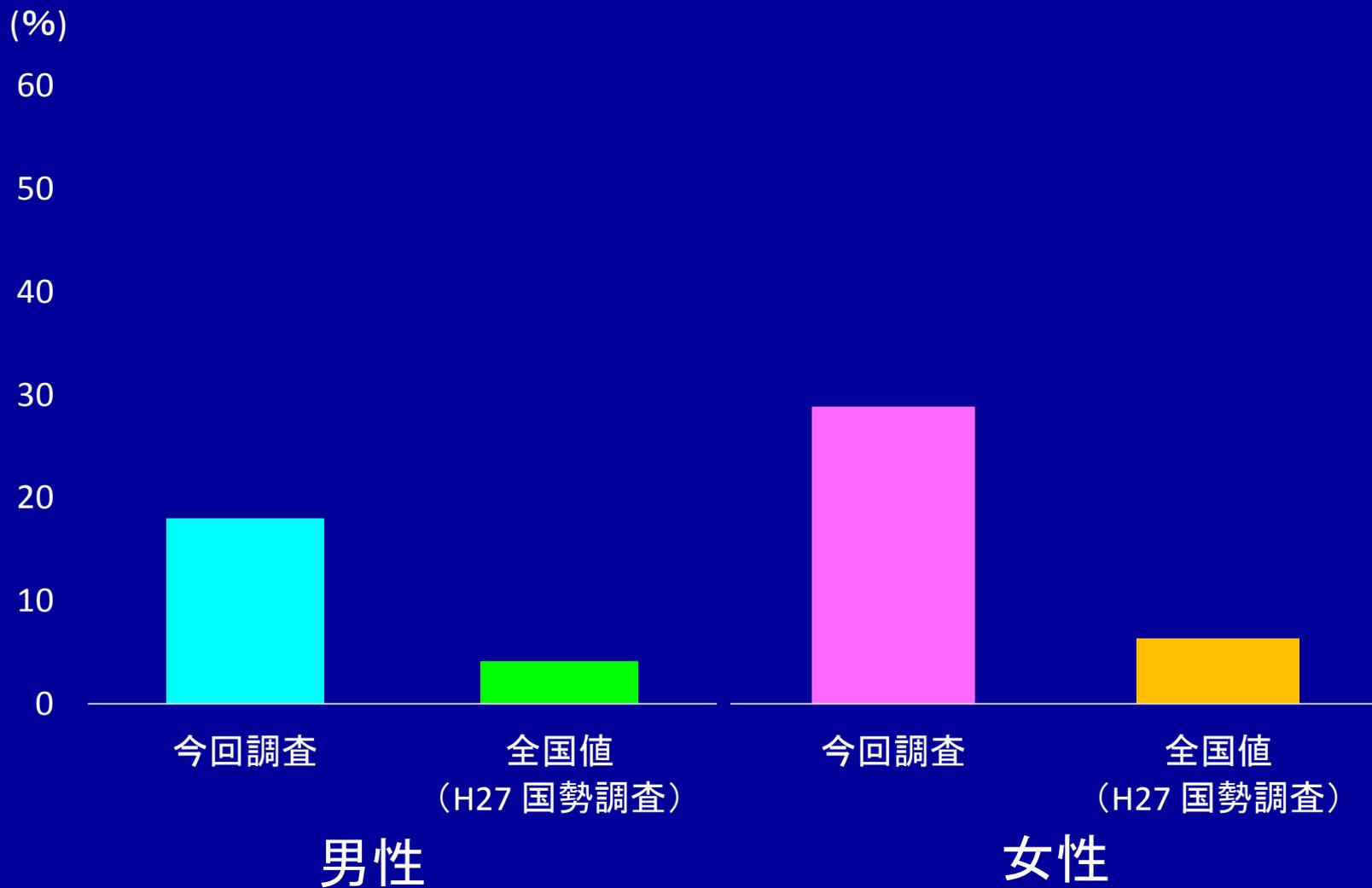


医療・保健・福祉などの支援者との接点が  
既に成立している

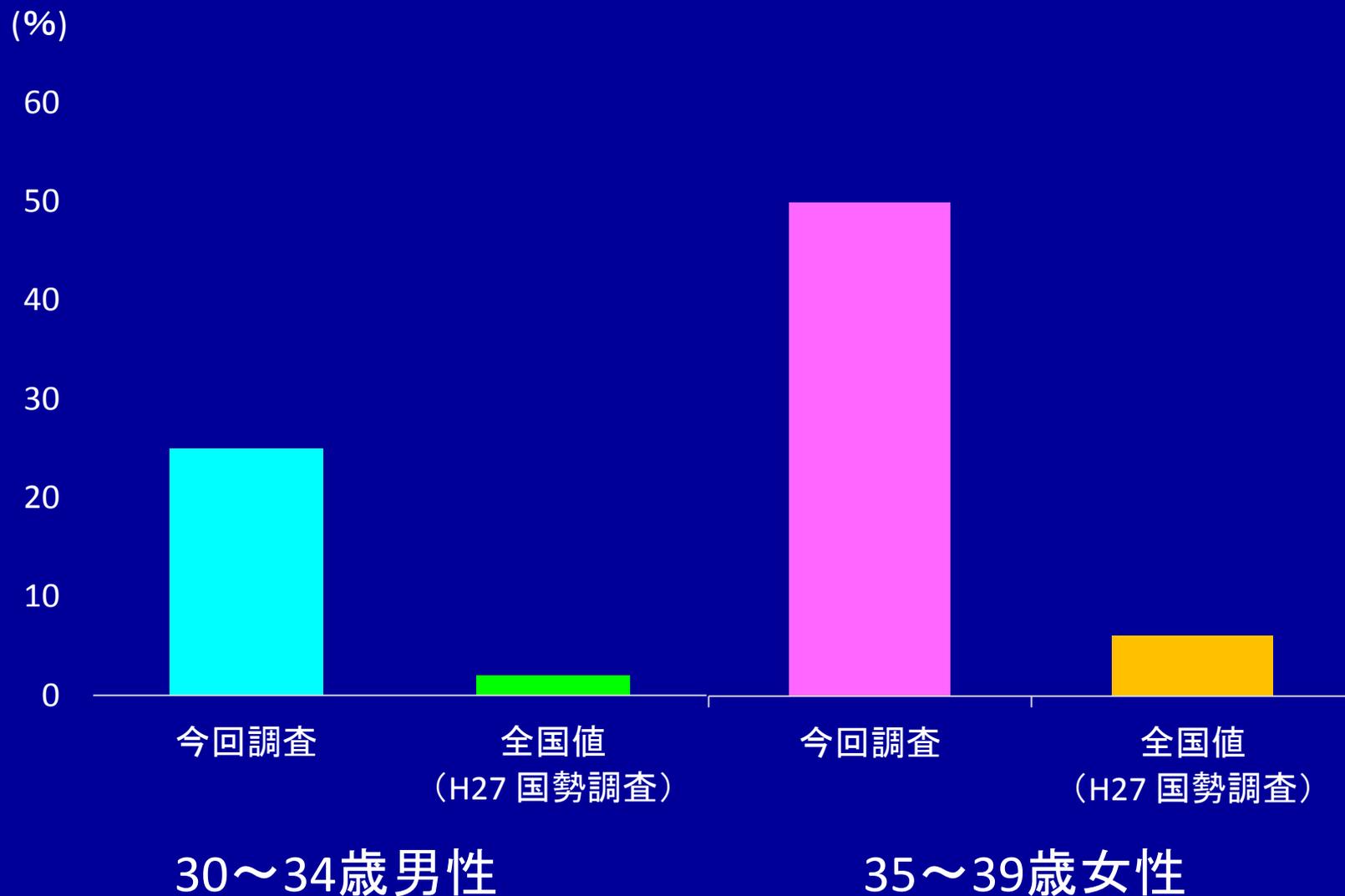


**精神症状の悪化を引き起こす前の  
平常時の地域精神保健活動の継続が重要**

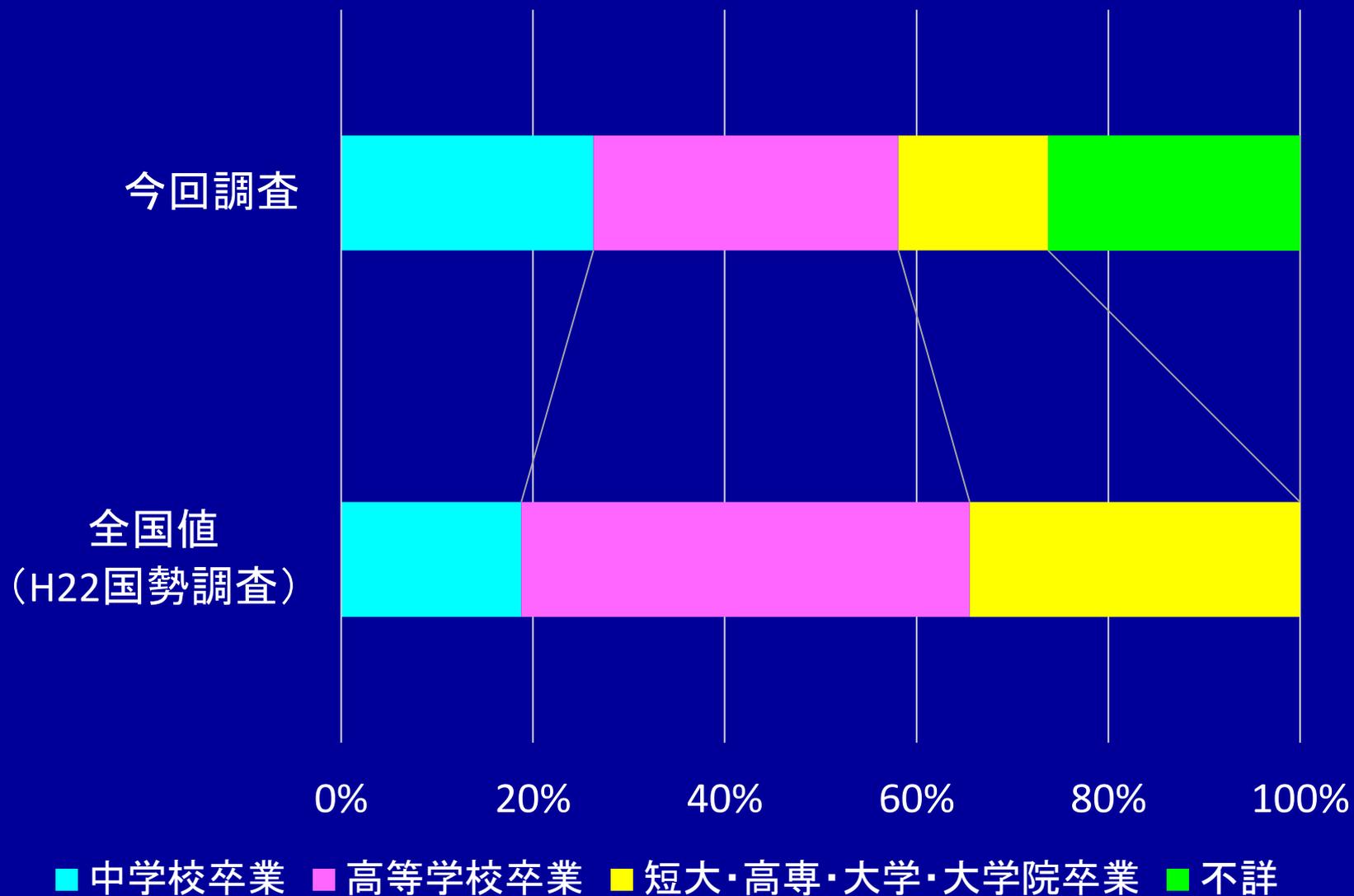
# 離別率(全体)



# 離別率



# 学歴



# 就業率

(%)

80

70

60

50

40

30

20

10

0

今回調査

全国

(H27労働力調査)

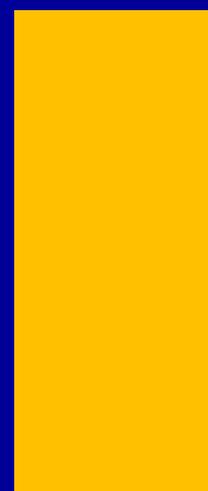
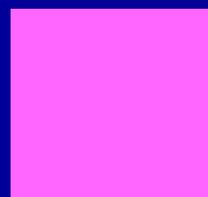
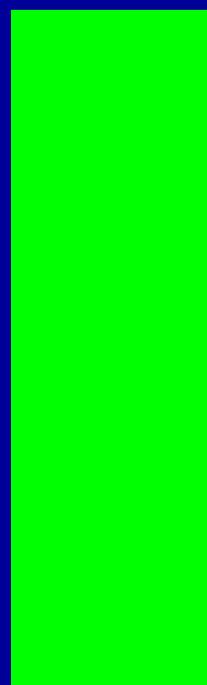
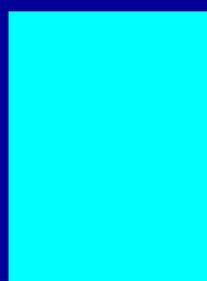
今回調査

全国

(H27労働力調査)

男性

女性



一度も就労したことがない者は4.5%



- 対象者のほとんどが就労経験あり
- 就職しても長続きせず、転職や退職している



社会的孤立、金銭的な問題等も

同時に抱えている可能性あり

# 自傷他害のおそれについて

## 宮崎県中央保健所

1位	自殺企図	(59.2%)
2位	自傷	(50.5%)
3位	暴行	(28.3%)

## 宮城県

1位	暴行	(53.7%)
2位	器物破損	(49.2%)
3位	傷害	(28.6%)



救急医療機関等からの

22条申請の増加が要因か

学校・職場・家庭環境の中で孤立し、医療中断や症状悪化により、問題行動（自傷他害）を起こす可能性



地域で生活する精神障がい者の孤立を防ぐ



**要支援者に対して「関わり続ける」こと**